

2006 年度

科目名 文学理論Ⅱ	対象学科・学年 文学部教福 2 回生 教育教福 2 回生	担当者 東 典幸
授業テーマ 分析哲学者のエッセイ、		
授業の概要と目標 出席と授業態度を重視し、試験で成績を調整する。		
評価方法 日本の分析哲学者の総帥であった大森荘蔵の『流れとよどみ』を読む。分析哲学とは、哲学の問題を言語の面から考える立場で、特に、日常的な言葉を使って考えるところに特徴がある。なかでも、『流れとよどみ』は専門家ではない一般読者に向けて書かれており、大森哲学のエッセンスが特に平易に表現されている。これを読むことで、論理的な文章の読解力と考える力を磨くのを目標とする。		
テキスト プリントを配布する	著者	出版社
参考書 流れとよどみ	著者 大森荘蔵	出版社 産業図書
授業スケジュール・内容 1、 夢まぼろし 2、 確率と人生 3、 記憶について 4、 真実の百面相 5、 ミリンダ王の車 6、 「論理的」ということ 7、 音がする 8、 見る－考える 9、 ロボットが人間になるとき 10、 同じもの、同じこと 11、 身振り、声振り 12、 逆さメガネと股のぞき 13、 古くて新しい生理学 14、 時を刻み切り取る 15、 心の中		